

寒川神社(高座郡寒川町)

ここが寒川神社



相模国一之宮/祭神は、寒川比古命と寒川比女命の二柱で、この二柱を称して「寒川大神」と称する/土着の神を祀った古社で、相模国造の宗社として創建されたと云う



三之鳥居と神池橋(太鼓橋)・神池を見たところ

 video



三之鳥居



社伝には5世紀後半の雄略天皇の御代に奉幣のことが記されており、以後、歴代の奉幣及び勅祭が行われたとあるらしいが・・・

寒川神社

寒川比古命・寒川比女命 二柱の神を奉称して寒川大明神と申します。

九月二十日（九月十九日 例祭宵宮祭・流鏝馬神事）

当神社は総国風土記によりますと、雄略天皇（四五七年～四七九年）の御代に奉幣（天皇より神社に献上品がされること）の記録があり、神龜四年（七二七年）に社殿建立とも伝わり、一六〇〇年以上の歴史を有しています。

以後、延暦十六年（七九七年）桓武天皇を始めとして歴代奉幣の記録があり、承和十三年（八四六年）に神階従五位下を始めとする神階授与もなされています。また醍醐天皇の御代に制定されました延喜式神名帳によれば相模國十三社の内、名神大社とされており、関東地方の信仰の中心をなしていました。

中世においては源頼朝、小田原北条氏累代による社殿造営や社領寄進がなされており、武田信玄からは武運長久を祈願して鉄鎧地六十二間筋兜（神奈川県指定重要文化財）が奉納されるなど特に崇敬の念は篤く、徳川家代々においても社殿再建、社領寄進など古来より武家からの崇敬は極めて篤いものがありました。

明治期になりますと、明治四年五月に制定されました官国幣社制度によって、例祭において国費から幣帛料が奉納される「国幣中社」に列せられました。

その後、大正時代における関東大震災、昭和の御大典という時代を経て、昭和二十年八月十五日、大東亜戦争の終戦後、同年十二月の神道指令によって、神社の国家管理制度が廃止されました。昭和二十一年二月、神社神道の宣布と祭祀の執行による氏子の教化育成を目的として、全国の神社及び神社関係者を統合する神社本庁が設立され、当神社も神社本庁による包括神社となっております。

戦後、日本全体の復興とともに、八方除信仰を中心とした御神徳の宣揚に努め、全国の崇敬者からの御崇敬と多くの御参拝をいただいております。

平成の御大典記念事業として平成九年に御本殿、幣殿、拝殿、翼殿、廻廊等の増改築が行われました。

神聖なる神嶽山を背に、約一万五千坪を有しており、平成二十一年には御本殿奥庭の禁足地を「神嶽山神苑」として開苑致しました。



- ① 御本殿
- ② 神門
- ③ 神馬舎
- ④ 手水舎
- ⑤ 南門
- ⑥ 納札殿
- ⑦ 客殿
- ⑧ 社務所
- ⑨ 人形奉斎殿
- ⑩ 三の鳥居・神池橋
- ⑪ 神嶽山神苑
- ⑫ 方徳資料館
- ⑬ 神嶽山神苑外門受付
- ⑭ 馬場

境内のご案内



- | | |
|-------|-------------|
| ① 御本殿 | ⑧ 社務所 |
| ② 神門 | ⑨ 人形奉斎殿 |
| ③ 神馬舎 | ⑩ 三の鳥居・神池橋 |
| ④ 手水舎 | ⑪ 神嶽山神苑 |
| ⑤ 南門 | ⑫ 方徳資料館 |
| ⑥ 納札殿 | ⑬ 神嶽山神苑外門受付 |
| ⑦ 客殿 | ⑭ 馬場 |

※神嶽山神苑への入苑、
また方徳資料館への入館は、
御祈禱を受けた方に限ります。

参道の先に神門が見えて来る



これが神門

 video



そこで、右手を見ると客殿(左)と社務所(右)



神門の前には巨大な狛犬が...



神門の先には拝殿が見える





拝殿/背後に祝詞殿と本殿が続くようだ

 video





右手は客殿



拜殿左手前の廻廊



そこから拝殿を望む



同じく、神門を望む/左手は客殿



神門



その廻廊の外から廻廊(右)と本殿(左)の屋根を見たところ



本殿の屋根をアップで見たとこ



この先の神嶽山神苑は回遊式日本庭園となっているらしい(中には入苑せず)

 video



ここは社殿左脇の道(流鏝馬の馬場)



参考ホームページ

<https://iijiamemo.com/archives/samukawaiinia.html>

<https://www.visiting-japan.com/ja/articles/kanagawa/i14kz-samukawa-iinia.htm>

